

第4回 腹証奇覧・奇覧翼を読む

小建中湯他

診方§四診

峯 尚志

今回学ぶ処方

(○は文礼の●は叔虎の解説)

○小建中湯

●小建中湯、黄耆建中湯、当帰建中湯、大黄廑蟲丸

○●大建中湯

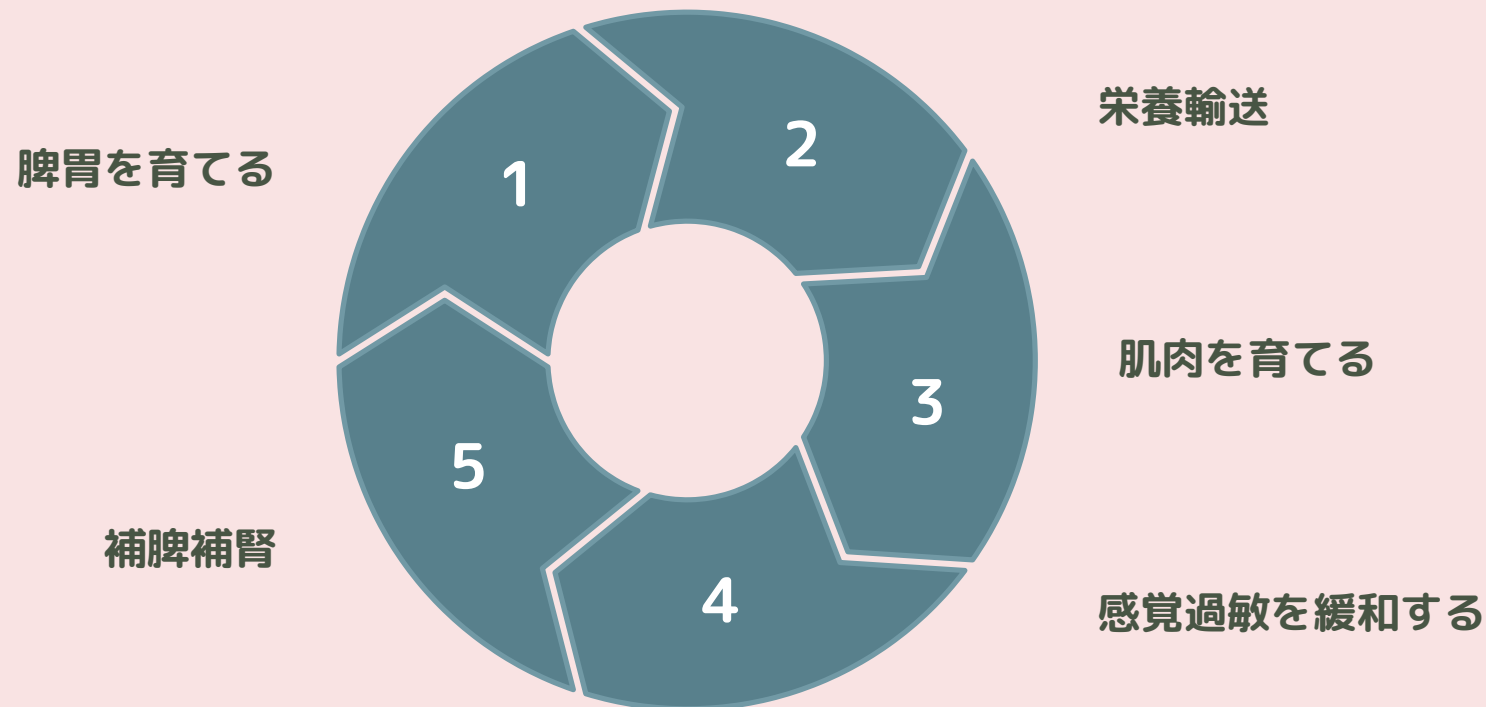


小建中湯

小建中湯の構成



小建中湯の働き



小建中湯証はしばしば子供にみられる

14才、男子、食欲不振、めまい、動悸、痩せて腹直筋の緊張が顕著だが、筋肉の厚みはある

小建中湯で登校前に起きる腹痛がなくなり、食欲が出て食べられるようになった

めまい、動悸も改善し休みがちだった学校にも行けるようになり、3か月で治療終了

13歳男子、腹痛、頭痛、便秘毎日15分力むが出ない、 週1学校休む



小建中湯で便秘、腹痛消失、頭痛緩和

15歳女子、高1

- 腹痛、頭痛、ふらつき、吐き気、だるさ、よく腹が立つ
- 毎日腹痛、頭痛で不登校ぎみ、進級危ない。
- 多夢：夢で鼻血が止まらない、手術室で誰かが血をながしている
- アスペルガー症候群で人となじめなず心療内科受診中、月経順調
- 腹直筋緊張著明
- 小建中湯10g、抑肝散2, 5g夜処方
- 腹痛、頭痛消失、便秘、吐き気改善
- 心療内科のアルプラゾラム、酸化マグネシウム中止

小児の小建中湯

その特徴は

感覚過敏

叔虎いわく

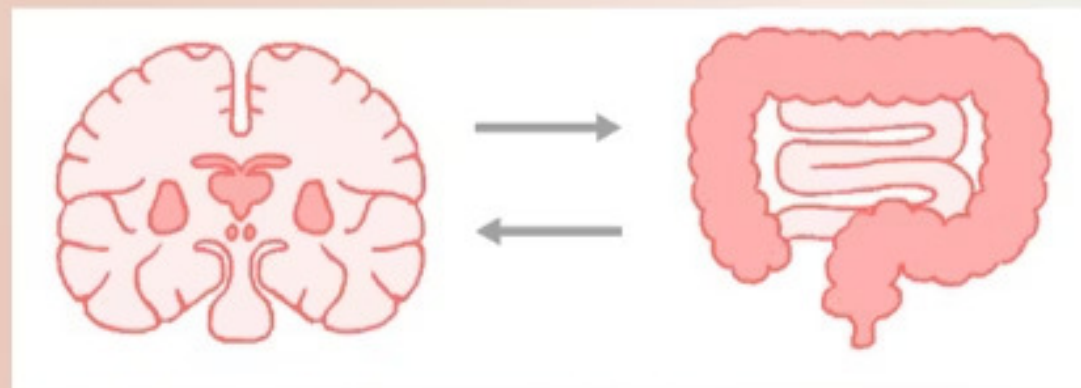
腹皮一面に筋張り引きつりて三指探按すれば、その人痒笑して按するに堪えざるものあり



触らないのに くすぐったい男の子

脳と腸はつながっている（脳－腸相関）

感情の言語化が下手な場合ストレスが身体の緊張にでやすい

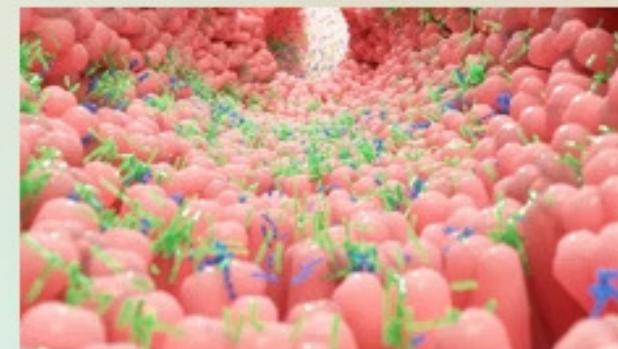


ストレス

交感神経緊張

蠕動不穏、便秘（下痢）

不安、緊張



腸内細菌の乱れ

肝心の陰を補う

方中の芍薬―甘草―大棗は
脳―筋関連による
脳の過緊張
腹直筋の過緊張
腸管の過緊張
をゆるめ



こどもの腸を育て
感覚過敏を緩和してゆく

小建中湯はこどもを育てる



叔虎の小建中湯

●叔虎の小建中湯図

図のごとく

腹一面に筋ばり引きつり

しかも太鼓の上を撫でるがごとし

二行通り二大竹を立てるがごとく

三指深く按すれば上下に引っ張るもの

弓弦を張るが如く

これを正按すれば底に実せず、

ただ中脘の辺より上、動悸つよく

圧按するに胸中までドキドキとおどり

さて四肢の肉ひすばり瘦せて

手足の心（うら）に熱を生じ、

脈浮大にして力なきものを

小建中湯の正証とす

小建中湯図



桂枝加芍藥湯ノ腹狀ニシテ心下痞鞭スルモノハ身疼
痛脈沈遅ノ証ヲ得ズ此方ヲ以テ治スベシ又安未方中生
痛アルモノハ胃管ノ停水アルモノトス必シモ
ノミヲモツテスラハシカルニアザルナリ

叔虎の描く腹診図は 小建中湯証の二本棒を明確に表現している



腹壁全体の緊張



二本の大きな竹を立てたような腹直筋の緊張



お腹の力のなさ



動悸



浮大だが力のない脈



細い四肢



手足のほてり

叔虎が示す腹診図は私たちが日常みている病人さんの様子を正しく表現している

もともと胃腸が弱く疲れやすく

やせ形で手足も細く

二本の大きな竹を立てたように腹直筋が緊張して

食が細く、たくさん食べることができず

時に腹痛し

時に便秘し

時に動悸を訴える

病人さんの姿

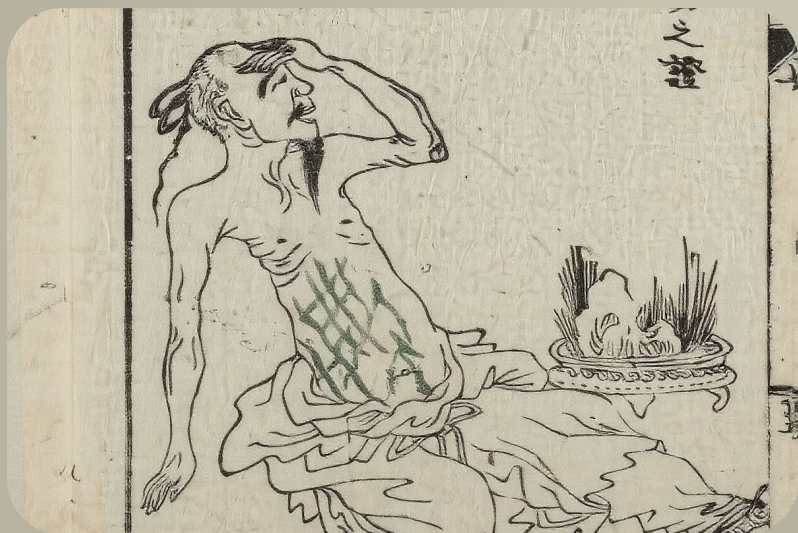
文礼の小建中湯



○文礼の描く小建中湯

腹皮拘急して
縦横数縄を引っ張りたるが如く
これを按ずるにたゆまず
例えば弓弦を押すがごとし
世に所謂、癆瘵癰症

あるいは鬱証と号するもの
この証多し
医者文辞に眩ぜず、
腹証によって方を処するときは
百発百中失するというとなし



文礼が百発百中といって治した病人さんは中老年の栄養失調で
やせ細り干からびた、脾虚から陰虚、腎虚に至った病人さん

図のごとく
腰が抜けたしぐさは
腎の虚をあらわしてる

金匱要略、血痺虚勞篇にみる小建中湯証

虚勞裏急

悸、衄

腹中痛

四肢は萎疼

夢に失精

手足煩熱

咽渴、口乾

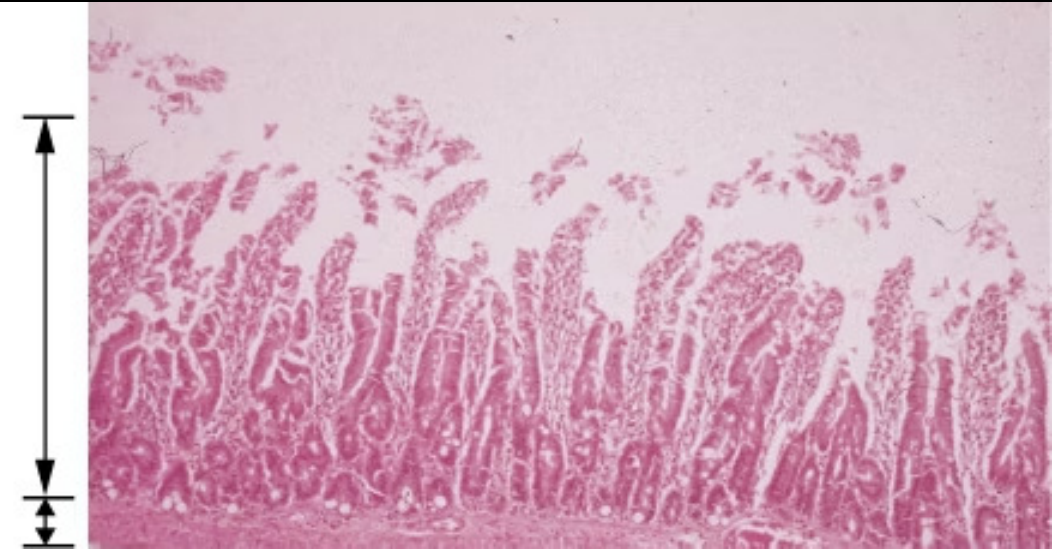
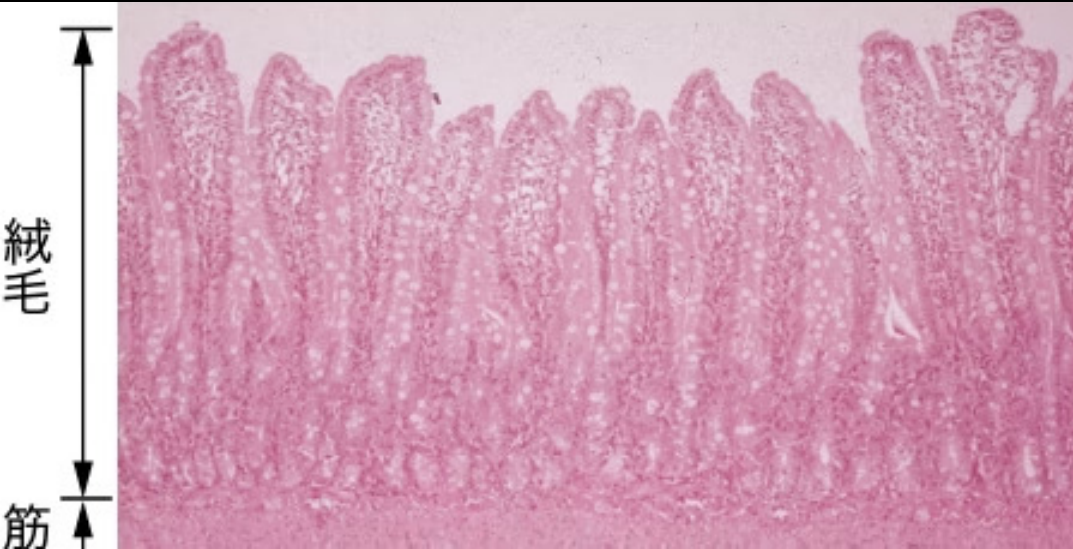
小建中湯主之

- 疲労し羸瘦してお腹が引きつり
- 動悸し、鼻血が出て
- お腹が痛み
- 手足は委縮して痛み
- 時に夢精して
- 手足がほてり
- 咽や口が乾燥する人は
- 小建中湯を与えたら元気になる

これはまさに脾虚から腎精虚
腎陰虚の至った
患者さんをあらわしている

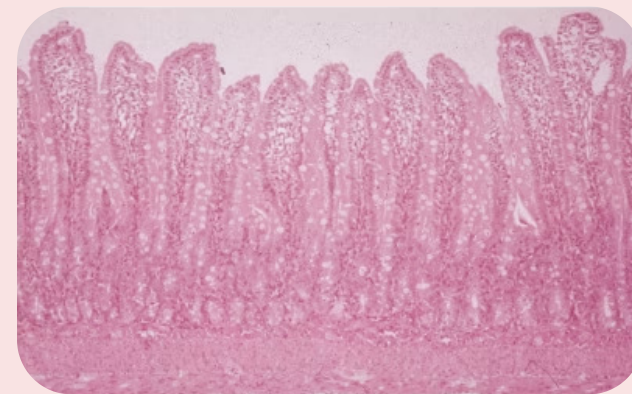
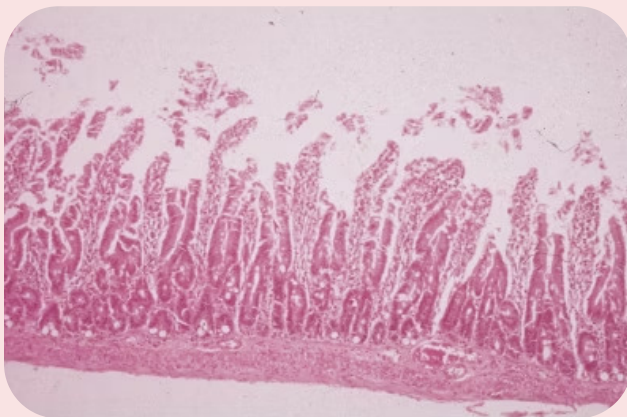


小建中湯は腎虚をも治す処方である



栄養失調によって委縮し傷ついた粘膜では栄養を吸収することができない

君薬の膠飴は甘草、大棗とともに傷ついた腸管粘膜を修復し、粘膜を栄養し潤し育てる

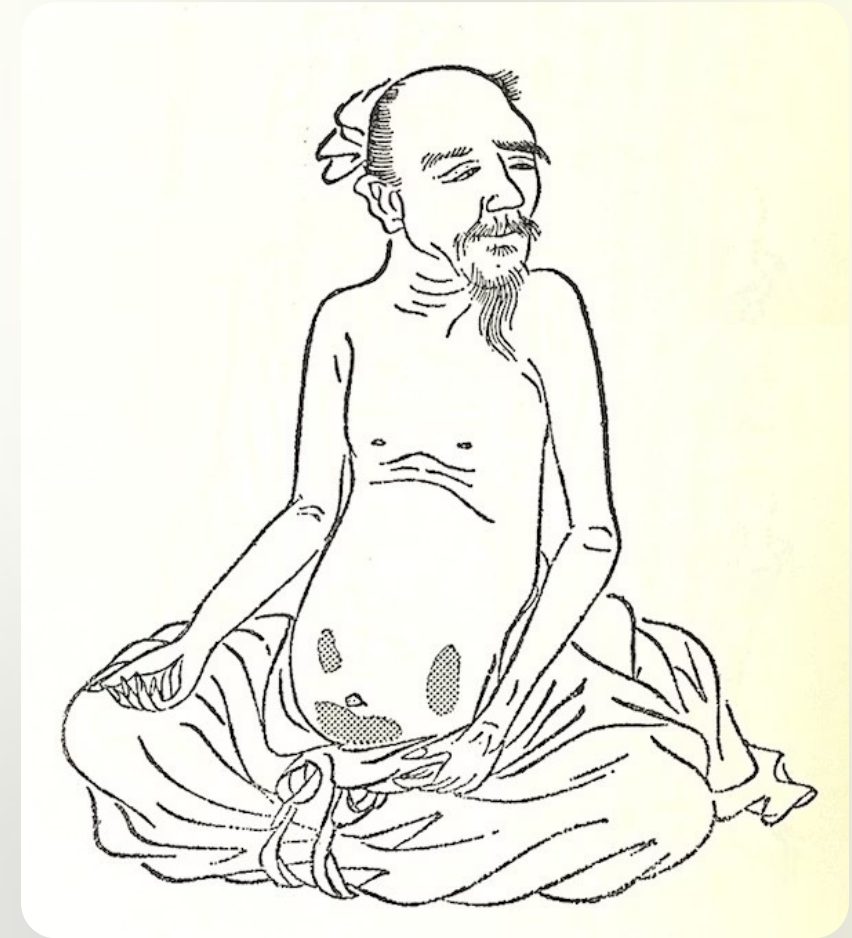


吸収された陰血（栄養）は筋肉にいきわたり腎気が回復する

腎虚を治す



小建中湯から→八味丸への腹証の流れ



腎虚の腹証の変遷ベニヤ板から臍下不仁へ

古代中国においては小建中湯は腎虚の処方であった

虚勞の病は小建中湯の二本棒から、虚するにしたがって

二本棒がやせて細くなってゆき

文礼の腹証のように腹壁全体が痩せて薄く緊張してくる

腎虚になると

臍下丹田を守るように下腹部の腹壁が緊張し

さらに虚が進むと、腹壁の緊張もなくなり、

少腹がふにゃふにゃと力のない状態になり八味丸の腹証となる

黄耆建中湯

小建中湯の腹証にして肌膚の乾くこと甚だしく、
あるいは自汗盗汗あるもの

叔虎の声を聴け

余が門の黄耆をもちうるに
自汗盗汗の有無を必とせず、
ただ肌膚の正気の乏しきをもって
診してあやまたず

黄耆建中湯の二つの腹症

どちらも肌膚の正気の乏しさを著している。

痩せて皮膚に栄養が行かずカサカサのお腹

やや肥満し肌が水っぽく
皮膚にしまりのないお腹

黄耆建中湯を与えることで
痩せて枯燥したお腹は潤いが出てふくよかになり
腠理が緩く
水っぽくしまりのないお腹はひきしまりたくましく
なる

当帰建中湯

当帰建中湯方

- 当帰（一錢四分）、芍薬（一錢二分）、桂枝（六分）、生姜（六分）、甘草（四分）
- 大虚の者には、飴糖を加う、或いは崩症にして止まざる者には地黄、阿膠を加えて可なり

叔虎の解説

小建中湯の腹状にして

少腹拘急

痛み腰背に引き

あるいは腹中刺痛

吸う息弱く息切れ（吸吸少気）するもの



○文礼の当帰建中湯

図のごとく

腹中拘攣急迫して腹底に数縄を
引っ張るがごとくにして
小腹腰背より引き痛むもの
或いは手足疼痛して浮腫するの
或いは卒に手足攣痛し、
俗に筋違いというもの
或いは血証にして虚羸、
氣息吸吸としてまさに絶せんと
欲するもの
皆この方を用いてその効著し。



文礼の当帰建中湯証では
手足の攣急や痛みを訴え羸瘦して重症感が強い

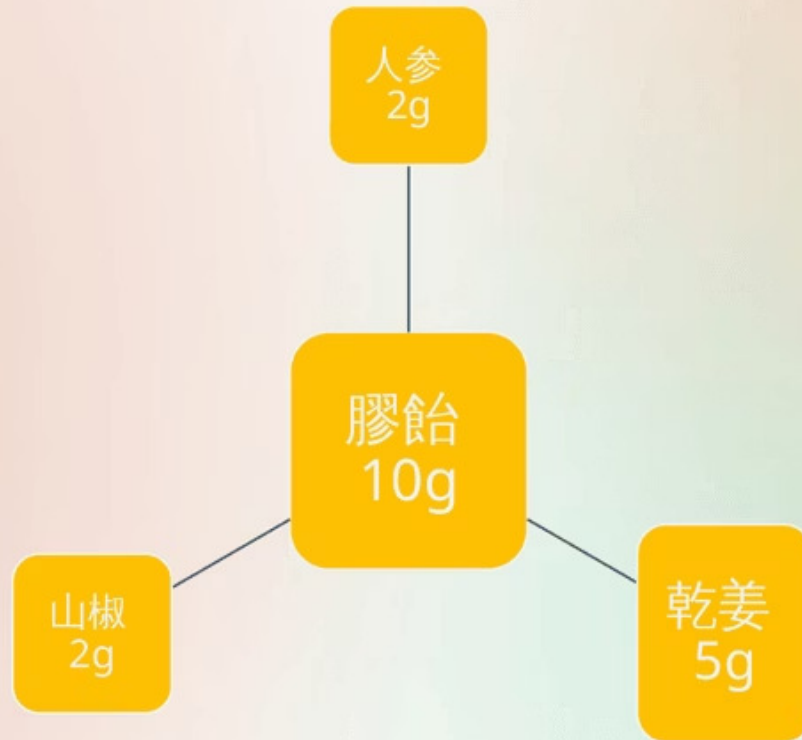
血虚の腹証とは？

すなわち血虚疼痛

腹の底に拘攣がある

大建中湯

大建中湯方



大建中湯のエビデンス

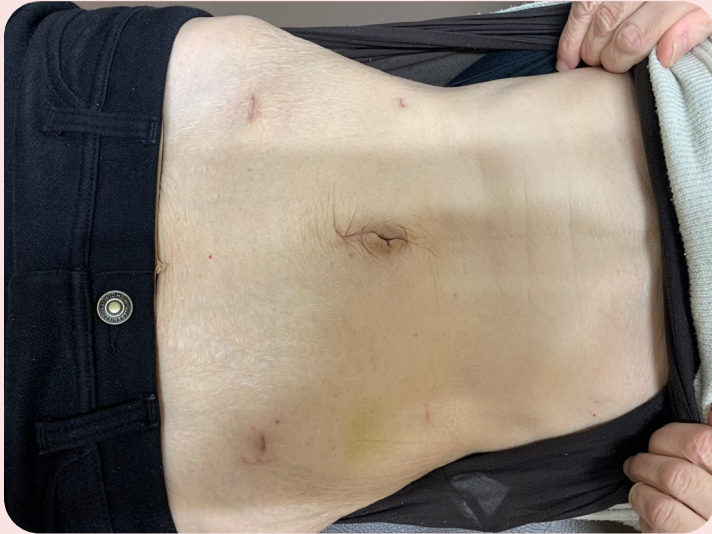
消化管運動促進作用

腸管血流改善作用

抗炎症作用

大建中湯 70才、女性 身長155cm、体重39kg

S状結腸大腸がん術後



術後一か月になるが大便がでない刺激性の下剤は腹痛で飲めないお腹に力なく冷えると痛む

大建中湯 15 g でお腹があたたり、

下剤を飲まなくても自然に便が出るようになった

大建中湯と小建中湯の違い

腹痛を治す大建中湯と小建中湯

- 1 ——— 大建中湯は腸管の炎症を抑え、血流をよくし、消化管の運動を促進することで腹痛を治す
- 2 ——— 大建中湯はイレウスを予防し治し、寄生虫を治す
- 3 ——— 小建中湯は腸管の拘攣を緩めることで腹痛を治す

大建中湯

腸管の筋肉も粘膜も痩せて萎縮して傷ついているため、栄養が吸収できず、便を作る力がなく蠕動が弱い。大建中湯で腸を温め、粘膜を治しながら動かして便を出す。

小建中湯

腸の力が弱いが大建中湯証より程度は軽く、血流障害はめだたず腸管の拘攣のため便秘する粘膜を治しながら潤腸通便し吸収した栄養を肌膚に届ける作用がある

大建中湯から小建中湯そして中建中湯へ

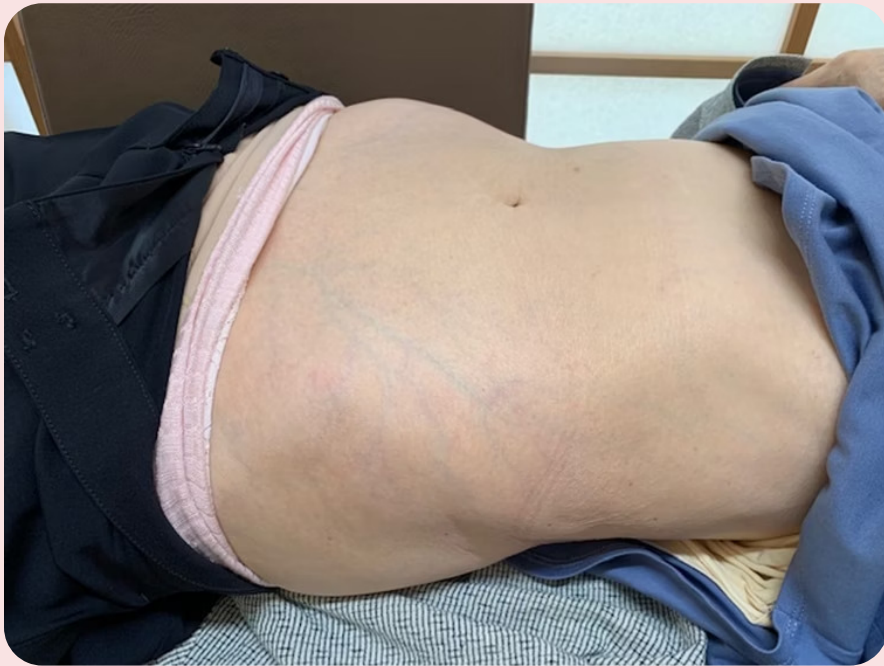
大建中湯から小建中湯最後に中建中湯に変方した症例

- 症例) 78歳、やせ型の女性
- 主訴) 倦怠感、息切れ
- 大腸憩室炎による腹痛発作を繰り返し、2度入院して、この2年間大建中湯を服用している。
- しかし、食事を食べても身につかず、100m歩いただけでも疲れて息切れするようになった。原因不明の息切れとして国立循環器病センターにて心肺機能の精査をするも、特記すべき異常は認めない。

大建中湯

- 脈は沈細。舌は淡白紅色、白苔少量。
- 全体に羸瘦し、食欲もあまりなく、食べたものが身につかない。声もかすれて力がない。
- 腹部は力なく腹力1/5で、腹壁は薄い。
- 以上の所見より大建中湯を小建中湯に変方。食欲気力ともに徐々に改善し、2か月後、腹部に皮下脂肪がみれるようになり、体重が3kg増加、息切れもしなくなったと笑顔で報告している。
- 現在は大建中湯エキス7.5g合桂枝加芍薬湯エキス7.5gで経過良好

痩せて乾燥したお腹が
大建中湯から小建中湯に変方後
みずみずしくふくよかなお腹に改善



大建中湯は腸に効く
小建中湯は腸から
筋肉に効く

文礼、叔虎の時代の大建中湯の臨床

寒痛を治す
イレウスによる腹痛を治し、
寄生虫病を治す

叔虎の大建中湯

●叔虎の大建中湯の証

図のごとき、塊物、腹中より上衝して心下に迫り、腹皮の上にあられ、起って頭足あるが如く動き、大いに急痛して死せんと欲す。

その塊物、手をもって按ぜんと欲すれども痛み甚だしくて触れ近づくべからず乾嘔して、身体冷汗流るるが如きもの大建中湯の証とす。

較輕のものは、時々心下にせまり上るるものあるを覚えて、乾嘔を發し、心腹急痛、身体冷ゆるものをこの証とす。この方、まさにばちの響きに応ずるごとく咽を下れば忽ち癒ゆ。



分礼の大建中湯

文礼はたくさんの
大建中湯証をみてきた

大建中湯の
三つの腹証を提示している

○文礼の大建中湯証 袋に包んだ木の枝の如し 図のごとく腹の皮むくむくと 起こりて

頭足あるがごとく、例えば木の枝を
袋に包みて推してみるがごとし
その人時として大いに寒痛し、
嘔して食すること能わず

発するときは事にふれて近づくべからず○文礼の大建中湯証II
うねうねと動く蛇かうナギか
或いは大便閉し、
或いは心胸、大寒上衝の者。

大建中湯之図



頭足アル者ノ
如キ毒

○文礼の大建中湯証II うねうねと動く蛇かうナギか

図のごとく、時々蛇のごとく
また鰻のごときもの腹中を遊走して
頭かと思う処にて痛み
尾かと思う処にて痛み
その患い忍ぶべからず。
諸薬も効なく、その余の思う処
人々にして異なるは、
すべてこの方に非ざれば治せず
図するが如くその腹、三状（三通り）あり
腹診を詳らかにして治療の効を奏すべし。
またいう。この証、まゝ傍らに下瘀血湯の
証をあらわすことあり、考うべし。



○文礼の大建中湯証Ⅲ 腹に背中に突然遊走し 寄せては返す波のごとし

図のごとく、腹常には平穩にして
発するときは腹皮動いて
波の打ち来るが如きもの
或いは、腹常にはこれを按ずも状なく
発するときは塊物遊走し、
上下往来して痛み
事にふれて近づくべからず
また言う、時として小さき囊のごときもの
忽ち去りて無きが如く
また来たるときは、痛み忍び難し
腹中にあるかと思えば忽ち背に回り
背にあるかと思えば、また腹中に来る。



建中湯証の極期には 頑固な瘀血が生じる

骨盤内臓器の瘀血に注目

●大塵虫丸

小建中湯の証にて
虚羸甚だしく、
肌膚乾きて
腹満攣急、
これを按するに堅くして痛むもの、
乾血とす
大塵虫丸の証なり

（乾血：古くなった瘀血、臓器を潤すことのできない乾いた血）

大黃廩虫丸

- 大黃、黄芩、甘草、桃仁、杏仁、芍薬、乾地黄
- 乾漆、虻虫、水蛭、蟪蛄（セイウ）、廩虫
- 効能：祛瘀生新、緩中補虚
- 病を去るはすなわち補虚のゆえん
- 血瘀が取り去られたあとは補虚の処方を考慮

大黃廔蟲丸

五勞虛極（心勞、肝勞、脾勞、肺勞、腎勞）

羸瘦腹滿

不能飲食

食傷、憂傷、飲傷、房室傷、飢傷、勞傷、經絡榮衛氣傷

內有乾血

肌膚甲錯

兩目黯黑

大黃廔蟲丸主之

経方100種にみる 大黃廩蟲丸の適応病名

•慢性肝炎、肝硬変腹水

•結核

•慢性白血病

•術後腸ねん転

•子宮筋腫

中風後遺症

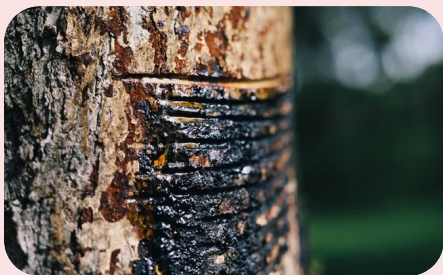
•下肢血栓性静脈炎

•脳動脈硬化症

•乾癬

•閉経

•脂肪肝



乾漆（カソツ：ウルシ）

- 漆の樹皮からでる樹液
- 性：辛、苦、温、有毒
- 活血化瘀・消癥・駆虫
- 帰経：肝、胃



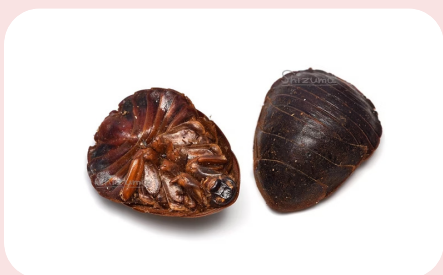
蟲蟲（アブ）

破血逐瘀、散結消癥
味：苦
性：有毒
帰経：肝
効能：破血逐瘀



水蛭（スイテツ：ヒル）

味：鹹、苦
性：平 有毒
帰経：肝、膀胱
効能：破血逐瘀



塵蟲、土驚虫 （シャチウ：サツマゴキバリ）

味：鹹
性：寒 有毒
帰経：肝
効能：破血逐瘀



蠕蠕 すくもむし

甲虫の幼虫、地虫
カブトムシの幼虫



動物生薬のパワースペクトル

1位 蟲蟲

性：苦、微寒、有毒 帰経：肝
通降経絡、通利血脈、破血消癥の力がもっとも強烈

2位 水蛭

性：鹹、苦、平、有毒 帰経：肝
蟲蟲より作用緩和で持続性がある
「遅緩よく入り、遅緩なればすなわち血を生じて傷らず、よく入ればすなわち堅積を破りやすし」

3位 塵蟲

性：鹹、寒、小毒 帰経：肝
作用はより平穏で、婦人科の通経、内科の消癥、骨折の鎮痛、接骨によく持ちいる。

下瘀血湯 使いやすい水蛭を用いた 動物性の駆瘀血薬

• 大黃、桃仁、蟅蟲

• 産婦腹痛、法當以枳実芍薬 假令不癒者、之為腹中有乾血着臍下、宜下瘀血湯主之、亦主經水不利。

• 右三味、末之、煉蜜和四丸、以酒一升、煎一丸、取八合、頓服之、心血下如豚肝

そのまま、丸剤で服用してもよいと思うが、、、

●虚劳の病の代表に肺結核がある

建中湯は肺結核にもよく使われた

肺萎の病たるは、口中辟辟として燥くを苦しみ、
咳すればすなわち、胸中隠々として痛み、
脈反って滑数なり、之を肺癰となす。

欬嗽、痰沫を吐き、日晡潮熱を發し、或いは痰血をまじえ吐す

桂枝加桜皮湯

黄耆桂枝湯

小建中湯

黄耆建中湯

大塵蟲丸

附方：労咳の処方 虚熱を治す地骨皮が多用された

- 地骨皮散（虚熱を治す）

- 地骨皮、柴胡、知母、秦皮、黄柏

- 地仙散

- 地骨皮、防風、甘草

- 方丹（狂騒を治す）肺結核末期の狂騒に用いたものと思われる

- 黒鉛、水銀、沈香、真珠、龍腦、じゃ香、金箔

まとめ

今回はおなかを元気にする処方である建中湯類について紹介した。

小児の腹痛や体質改善の妙薬である小建中湯の腹証は腹直筋の緊張であり、腹壁の過敏性も同時に見られる。黄耆を加えると皮膚の機能を高め排膿機能を促進する。当帰を加える証には、おなかの冷えから腹部や手足の攣急があらわれ、その処方は、血虚疼痛に用いる。

大建中湯は、小建中湯症よりさらに裏寒が進み、裏寒による腸管の蠕動不穏を山椒や乾姜をといた辛温の生薬を用いて治す処方となり、腹壁は薄く痩せて、腹部の脂肪もなく、腸管が腹壁を通して蛇がうねるような所見がみられる。

最後に大瘧虫丸であるが、建中湯の極期になり、骨盤内の悪血が目立つようになり、腹壁は薄く、干からびて、腹満攣急して痛むものに用いる。建中湯のなれの果てに持ちいる処方となる。